

2024年2月実績概要（メモ）

（2024. 3. 21）

生産調整が続くとともに誘導品毎で定修時期の差もあり、生産は前年に対し格差がでる状況が続く。

1. 生産動向

イ) エチレン 448, 500トン

前月比 ▲5. 9% (▲28,200トン)
 前年同月比 +3. 5% (+15,100トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	▲6. 5%	+ 3. 5%
定修要因等	—	—
能力増減	—	+ 0. 3%
稼働率変動	+ 0. 6%	▲0. 3%
生産増減率	▲5. 9%	+ 3. 5%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月80. 3% → 当月80. 7% ← 前年同月80. 8%
 定修プラント：前月 なし → 当月 なし ← 前年同月 なし

ロ) 主な石油化学製品

前月比は、日数の減少とともに定修規模差等から、LDPE、HDPE、PP、塩ビモノマー、MMA モノマー、AN、SBR、BR、ベンゼン、トルエンなどの15品目がマイナス。PS、EGの2品目のみはプラスとなった。

前年比は、日数増に加え、定修規模差や稼働率要因から、PS、MMA モノマー、EO、EG、AN、SBR、BR、キシレンなどの9品目がプラス。LDPE、HDPE、トルエンなどの8品目はマイナスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況（LDPE、HDPE、PP、PS）

イ) 生産

前月比は、日数の減少に加えて定修規模の拡大から LDPE、HDPE、PP はマイナス。PS は前月の生産がやや落ち込んだこともあり、当月は大幅なプラスとなった。

前年比は、定修規模差や生産調整等から、LDPE、HDPE、PP はマイナス。PS は日数増と稼働率要因からプラスとなった。

ロ) 国内出荷

消費マインドとしては、改善の動きが継続している。国内の生産活動は、前月の1月は、自動車工業等の生産の低下から、前期比でマイナスとなるも、2月の生産予測では増加が予測されているほか、生産マインドとしても強気トレンドが続いている。

汎用樹脂の出荷は、前月比は、ユーザー側の稼働日数の増加もあり、LDPE、HDPE、PP、PS ともにプラスとなった。

前年比は、LDPE、HDPE、PP はマイナス、PS は前年並みの出荷となった。

分野別の出荷動向ではフィルム等の包材分野は、LDPE、HDPE、PP の3樹脂で前年比マイナスが続いている。包材以外の分野では、HDPE は射出成形分野で増加傾向が見られているが、LDPE は、供給量の減少もあってほとんどの分野で出荷が低迷した。また、PP は、昨年、第2四半期以降、増加が続いてきた射出成形分野の出荷が前月に続いて当月もマイナスとなった。PS は電機・工業分野の出荷で増加が見られたが、その他の分野はいずれもマイナスとなった。

ハ) 輸出

極東市況は原料価格の小幅上昇、物流コスト増加要因もあり、総じてみれば上昇が見られている。

一方、需要サイドでは中国、周辺国での旧正月休暇もあり、取引自体の動きは鈍い状況となった。

前月比は、HDPE、PP、PS はプラス。前年比は、PP のみがプラスで他の3樹脂はいずれもマイナスとなった。

ニ) 在庫

在庫量は、前月に対して、LDPE、HDPE は減少、PP、PS は増加した。在庫率(季節調整済)は、LDPE は前月並み、HDPE、PS は低下、PP はやや上昇した。在庫水準としては、LDPE、HDPE、PP、PS ともやや高めの水準となっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		1月末	2月末
LDPE	▲17, 100	3. 6	3. 6
HDPE	▲500	3. 7	3. 6
P P	+13, 600	3. 3	3. 4
P S	+ 6, 200	1. 8	1. 7